

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 6 月 29 日（火）18：30～20：03

場 所：カルチャープラザ「Eki」

出席者：22 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 栗山赤十字病院の改築（別紙 1 参照）
- (2) 栗山駅南交流拠点施設整備事業（別紙 2 参照）
- (3) 令和 3 年度の主要施策（別紙 3 参照）

4. 自由懇談

5. その他

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築】

町民：改築計画が予定通り、1日でも早くできることを期待している。ただ、資料2ページの図面には書き込みがないが、これからの病院は町のコミュニティバス・中央バス・夕鉄バスなどの交通機関が直接病院玄関前にバス停を置いて、そこで乗り降りできるような対策を立てていただきたい。例えば、最近立派になった江別の市立病院なども、すぐ玄関前までバスが入ってくるので、患者も雨に当たらず病院に入ることができる。これからの病院はそのような配慮を検討してほしい。

町長：現在でもコミュニティバスは玄関前で乗り降りしている。今回の改築では、緊急車両との関係で工夫している部分がある。

栗山赤十字病院改築準備室長：駐車場と敷地内でのバス停の設置について、図面の中では明示していないが、人工透析棟の上側に基本タクシーなどの乗り降りができるロータリーを設置することが案の中に入っている。どれくらいのエリアを確保できるかについては、バス停留所などを含めたアプローチがあり、屋根にかかる部分で乗り降りができるかを含めて検討していきたい。入口については、今までは北側からの入り口一本だけだったが、改築後は図面右側、現在は橋が通行止めになっているが、橋の建て替えを含めて今後検討し、そこから入って左へ抜ける形。救急車両は黄色い枠の右側に専用の通路がある。救急専用の動線を確保することで、他と動線を分けながら、活用しやすい病院づくりを今後の設計で進めていきたい。

町民：ヘリポートを作ってもらえないか。救急車で地上に行くことも大事だが、緊急的な事例もあると思う。もし屋上にヘリポートを設置すれば、札幌などにもすぐに行けるので、活用効果はあると思う。また、コロナ禍や地震のときに思ったが、災害時にぱっと集まることのできる、道具などが置いてあるスペースは考えられないか。必要なものは大体予想がつき、そこに行けば給水などができる、災害時を想定した建物とはならないか。町の中にも介護施設の職員の方があるので、そういった方がさっと使えるような道具を置いておく、備蓄の建物としての考えはないか。

栗山赤十字病院改築準備室長：ヘリポートについては、現在の設計の中では考えていない。今のヘリポートの離着場所は、栗山赤十字病院から近くだと、栗山公園駐車場・栗山小学校グラウンドで離着している。基本的に栗山赤十字病院の患者が病院に入って、そこからヘリで輸送するというケースがあまりないので、現場の方から救急で連絡が入り、そのまま公園や小学校へ行き、そこからヘリで搬送するのが主なケース。屋上に設置するというよりは、現状の屋外ヘリポートの利活用で十分ではないかと考えている。ただ、病院搬送後にヘリで搬送することも考えられるので、建物の強度の課題もあるが、簡易的に可能であれば、栗山赤十字病院と協議を進めていきたい。災害時の拠点となるような備蓄倉庫などについては、現在も栗山赤十字病院は災害拠点病院として指定されている。災害があったとき、基本的には駐車場エリアを使って大きなテントを設置し、そこで診療やいろいろな活動することになっている。資料の図にはないが、提案業者からの案で、40年後、さらに改築が必要になった時のスペースを図面右上に確保している。そこに倉庫を建てる案も設計会社から出ている。そういったことも含め、病院の建設を進めるうえで協議していきたい。

町民：昭和53年ごろの大雨で病院の横の川が氾濫し、我々の家の前まで水が上がった経験がある。そういったことは当然考慮していると思うが、今その河川の護岸なども相当傷んでいるので、そういった周辺の整備についても、この機会に検討してほしい。

栗山赤十字病院改築準備室長：現在の洪水ハザードマップでは、現地の浸水想定水位は1mほどとな

っている。建設時にはその1mの範囲にある地面を嵩上げして、浸水したとしても、建物内に水が入ってこないような形で検討を進めている。

町長：国道234号から栗山赤十字病院に90度以上曲がって駅に向かって入るところがある。緊急車両も国道234号から曲がって入る交差点だが、右折専用レーンがない。今、国道234号の4車線化の整備要望を国へしているが、なかなか改良予算がつかない。北海道開発局からの指導により、危険な交差点が何カ所もあるので、そこに右折レーンをつけるか拡幅する。同様の箇所は国道234号上、町内で8カ所あるので、そこをまず改良して、それが全部終わった段階で一気に4車線化要望をしてはどうかという指導を受けた。今年、札幌開発建設部長の説明では、岩見沢から来て最初に駅に曲がる交差点に右折レーンがあるが短いので、イベントなどがあると渋滞を起こす。その交差点を改良する調査設計費が新規事業化されたという話があった。私からはその改良が終わったら、次に栗山赤十字病院の改築と併せて、その交差点の改修できるように要望を出している、何とか右折レーンをつけられるようにしていきたい。救急車両の出入りが少しでもスムーズになるように要請していく。

【栗山駅南交流拠点施設整備事業】

町民：栗山駅という名前が入っているが、栗山駅はしばらく存続できるのか。儲けがない駅はどんどんつぶされていっているし、何回か利用したことがあるが、JRを利用するには2時間空いていて不便だ。また、拠点施設について、レイアウトを見ると若者はいいが、高齢者が気軽に入れるようなスペース、サンタの笑顔のような要素を加えることはできないか。

町長：JR関係は、道内でも廃止・縮小が検討されている、維持困難な8路線の一つに、室蘭線が入っている。我々としても何とか維持していきたいと、JR栗山駅を中心に室蘭線を維持する目的のもと沿線自治体で協議会を作り、利用促進としてさまざまな取り組みをしている。だが、コロナ禍の影響により、なかなか利用客数が伸びていないこともあり、室蘭線の収支は12億円近い赤字で、8路線の中でも赤字の多い部類になる。ただ、国がJRに対して数千億円の支援を決めたので、その期間内に何とか利用促進を行い、残せるように頑張っていきたい。感覚的な話になるが、室蘭線は貨物も走っているので、簡単に失くすことはないだろうと思っている。しかし、貨物だけ残すという可能性もあるので、何とか乗客も運ぶような工夫をしていきたい。また、どこから出た情報か分からないが、旭川空港と新千歳空港を結ぶ特急列車を電気で走らせる構想があると新聞に出ていた。その中で、栗山駅に停まるといういい情報もあるが、その出所を調べたがまだ分からない。何もないところからそういった話は出ないので、もし可能性があれば、積極的にアプローチしていきたいと考えている。

ブランド推進課栗山駅南交流拠点施設担当主幹：交流拠点として、高齢者の憩いの場となるかという点について、交流拠点施設は計画時点でも、高齢者の方の利用、小さな子どもの利用、町外から来た方利用についていろいろと考えた。結論として、先ほど町長からの説明にあった通り、関係人口を作っていく施設にしたいというのが大きな命題になる。ただ、関係人口だからといって、町外の方しか使わないということではなく、町内の方にも幅広く使っていただきたい。高齢者寄りに何か用意し、特化してしまうと、施設の利用の幅が逆に狭まってしまうので、例えば多目的ホールは休憩利用のために入りやすい施設にしていきたいし、食事などで利用してもらえればと思っている。ただ、この施設の一番大きな特徴として、利用するだけでなく自分で活動してほしいという点がある。調理室では、単純に調理したものを出すのではなく、今の栗山駅前通りで行っているまちなかレストラン、日替わりシェフでランチ提供を行っている事業があるが、それを

移転するようなことも想定している。現役を引退された方が自分で作る料理を一般の方に広く食べてもらって評価を受けたいなど、チャレンジショップとして入ってもらうような想定もしている。また、ものづくり DIY 工房という、ものづくりをテーマにした体験空間もあるが、3D プリンターなどを使って新しいものをつくるなど、色んな体験をきっかけにして、高齢者が新たな生きがいづくりとして活用することも想定しているので、ご理解いただきたい。

【令和 3 年度の主要施策】

質疑なし

【自由懇談】

町民：介護福祉学校・栗山高校の内容と、町内のいろいろな施設、新しくできる栗山赤十字病院を中心に、一連となって若者の育成、高齢者・身体障がい者に対する見守り・診療など、連携した町内の流れを作っていくようにできないか。

町長：町内には介護福祉学校、多くの介護施設事業者、栗山赤十字病院をはじめ、開業医の先生などがあるので、きっちりと連携して、地域の包括ケアシステム、一つの地域の中である程度完結できるようなものをこれから整備していきたいと考えている。教育委員会、介護福祉学校、福祉課の中でしっかりと構築していき、できれば地域完結型の、安心して暮らしていけるような包括ケアシステムの仕組みを考えていきたい。

【その他（各機関・団体からの質問・意見）】

【カルチャープラザ「Eki」連絡通路天井について】

建設総括：カルチャープラザ「Eki」の連絡通路については、連絡通路屋上の天井防水機能の劣化により、数年前から雨漏りがひどくなっている状態で、通行されている方には大変ご迷惑をかけている。この間も一時的な修繕を行っているが劣化がひどく、雨漏りしている状態。連絡通路の修繕については、当面の応急処置として、通行に支障がないよう天井全面にビニールシートを貼り、雨水を片側 1 カ所で集約するなどの工事を 6 月 30 日に発注予定で、工事完成の 9 月末を目指し、修繕を進めている。また、連絡通路屋上の本格的な防水工事については、JR の軌道上ということもあり、町で勝手にはできない。少し時間がかかるかもしれないが、できるだけ早い時期に工事に着手できるよう、JR との協議を進めていきたい。

【公共施設の管理について】

まちづくり総括：各施設については、基本的には担当課で所管しているが、今、庁舎内で公共施設マネジメント推進会議という全体的な会議体を設けており、事務局を担当している私の方から一般的な内容について回答したい。町では、公共施設全体の維持管理に関する基本方針を定めた「公共施設等総合管理計画」、また、各施設の維持管理・修繕等に係る対策内容などを定めた「個別施設計画」を策定している。これらの計画においては、施設の長寿命化を図ることを前提に、施設の巡視・点検を徹底し、破損箇所があった場合は適切に修繕を行うこととしている。指定管理施設では、個別計画に基づき担当課と協議し、必要に応じて予算要求することとしている。しかし、限られた予算の中で対応する必要があることから、基本的には、利用者の安全性確保かつ緊急性の高い修繕を優先して実施しているのが現状。施設を利用する中で、不便なことなどがあれば知らせていただきたい。